

## 令和 2 年度事業報告書

令和 2 年 1 月 1 日～令和 2 年 12 月 31 日

### 1. 第 30 回日米草の根交流サミット 2020 フィラデルフィア大会開催延期

令和 2 年度の第 30 回日米草の根交流サミット 2020 フィラデルフィア開催について、以下のような日程及びプログラムの準備を進め、日本人参加者への参加募集及び大会参加説明会もほぼ終了していたが、令和 2 年初頭に発生した新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のため、令和 2 年中の開催を中止とした。

2021 年中の延期開催を見込んでいたところ、米国国内の感染拡大の収束およびフィラデルフィア地域の経済回復が見込まれず、共催団体のフィラデルフィア日米協会も財政立て直しが最優先課題であるとのことより、2022 年以降の開催に向け引き続きフィラデルフィア日米協会、CIE-US と日程を今後模索することに至った。

開催地： フィラデルフィアを中心としたペンシルベニア州南東部各地

開催時期： 2020 年 10 月 6 日（火）から 13 日（火）

共催団体： フィラデルフィア日米協会、CIE-US

地域分科会：以下の 10 地域で分科会を開催することとし、準備を進めた。

- |             |               |
|-------------|---------------|
| － ソサエティ・ヒル  | － オールド・シティ    |
| － フェアマウント   | － ユニバーシティ・シティ |
| － 南フィラデルフィア | － グレンサイド      |
| － チェスナット・ヒル | － ウェスト・チェスター  |
| － ランカスター    | － リーハイ・バレー    |
| － メイン・ライン   |               |

開会式典及び歓迎レセプション： 10 月 7 日(水)

会場： 「フランクリン科学博物館」

閉会式典及びフェアウェル・パーティー： 10 月 11 日(日)

会場： インディペンデンス・シーポート博物館

宿泊ホテル：到着後 2 泊はフィラデルフィアの中心に位置する「フィラデルフィア・マリオット・ダウンタウン」。最終日の 1 泊はデラウェア川岸のペイズ・ランディングに立地する「ヒルトン・フィラデルフィア・アット・ペイズ・ランディング」を予定していた。

オプション・ローカル・ツアー：

大会 2 日目の「ローカル・ツアー」には、以下の 5 コースを用意した。また、フィラデルフィア出身の人類学者キューリンが発見した、万次郎ら漁師 5 人の漂流の記録した『漂異紀畧（ひょうそんきりやく）』最古の写本が

ローゼンバック博物館に所蔵されていることもあり、フィラデルフィア大会の開催に合わせて企画された「ローゼンバック博物館特別展『万次郎 漂流：1841-2020』」観覧もツアーの一部に組み込んでいた。

- A) インディペンデンス・リバティー・ウォーキング・ツアー  
＋ローゼンバック博物館
- B) 美術館（フィラデルフィア美術館またはバーンズコレクション）  
＋ローゼンバック博物館
- C) アーミッシュカントリー・ツアー
- D) ニューホープ・ツアー
- E) ペンシルベニア大学キャンパス&考古学人類学博物館  
＋ローゼンバック博物館
- F) ローゼンバック博物館&フリー

ポスト・サミット・オプション・プログラム：

大会終了後プログラムとして下記4プログラムを設定した。

- 1. 万次郎の足跡残るフェアヘイブンホームステイ（2泊）と古都ボストン（1泊）  
協力：万次郎・ホイットフィールド・フレンドシップ協会及びボストン日本協会
- 2. ワシントンDC 半日ツアーとヴァージニアホームステイ（2泊）  
協力：Taeko Floyd 氏
- 3. ミシシッピ川之源流ミネソタ州でホームステイ（2泊）  
協力：ミネソタ日米協会
- 4. 大自然に囲まれたコロラド州コロラドスプリングスホームステイ（2泊）  
協力：南コロラド日米協会

参加者募集活動：フィラデルフィア大会への参加者募集のため、下記の活動を行った。

- 1. パンフレットの配布：過去参加者、国内の日米協会・国際交流協会、他関係各所
- 2. 日本各地8ヶ所での説明会：1月～2月

## 2. 第31回日米草の根交流サミット2021和歌山大会開催準備

2021年度の事業活動として下宏和歌山県副知事、県庁国際課の協力を得て、準備を進めていた第31回日米草の根交流サミット大会も、依然と続く新型コロナウイルス感染拡大の影響により、安心・安全確保の対応が困難であるとの理由により、1年の開催延期に至った。

2022年の大会開催準備を、県庁国際課及び和歌山県日米協会の協力のもと以下の通り行った。

開催地：和歌山市および和歌山県全域

開催時期：2022年6月21日～6月27日とする

共催団体：和歌山県、CIE-US

オープニング式典：和歌山県立文化会館小ホール

歓迎レセプション：ダイワロイネットホテル和歌山

クロージング式典&フェアウェル・パーティー：田辺市ビッグU

宿泊ホテル：和歌山市内(2泊)

南紀白浜マリオットホテル(1泊)

地域分科会：以下の9地域で分科会を開催することとし、準備を進めた。

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| － 和歌山市          | － 橋本市（橋本ユネスコ協会） |
| － 湯浅町           | － 田辺市           |
| － 白浜町           | － 上富田市          |
| － 串本町（南紀国際交流協会） |                 |
| － 那智勝浦町         | － 新宮市           |

参加者募集活動：和歌山大会への参加者募集のため、下記の活動を行った。

1. オンラインインフォセッション：CIE-US マーケティング委員会の協力を得て、アメリカ人の過去参加者たちや米国各地の日米協会会員を中心にサミット大会の説明と和歌山の魅力を紹介した。

### 3. 新型コロナ感染対策交流活動の開催

コロナ禍の状況であっても交流活動を持続させるべく、日米の関係団体と協力し、以下のプログラムイベントを行った。

#### ■ ワシントン州日米協会主催 “Summer Beer Garden Re-imagined (仮想 夏のビアガーデン)” 協力参加

2018年の日米草の根交流サミット シアトル・ワシントン州大会の共催団体であったワシントン日米協会が新型コロナウイルス感染対策として始めたオンライン交流会の一つとして「仮想 夏のビアガーデン」を開催。ワシントン州在住の会員、ワシントン州に縁のある日本人が集合。日本時間日曜日早朝にも関わらず、JASSWより招待されたシアトル大会参加者も参加した。改めてシアトル大会ビデオが紹介され、シアトルで行われた盛大な日米交流を振り返った。CIEからはコロナ禍の東京の街の様子をビデオで紹介。グループセッションでは参加者の各々が直接語り合えるスタイルで、日米の状況やお互いの安否を確認するなどの交流を図った。

開催地：オンライン

開催日：2020年8月30日午前8時半

主催団体：ワシントン州日米協会

主な参加者：

- ・ 大村昌弘元シアトル総領事、現・駐フィジー兼キリバス兼ツバル兼ナウル兼バヌアツ特命全権大使
- ・ カリン・ザック・ブラック Port of Seattle 国際渉外責任者
- ・ 川内利浩 北米三菱商事シアトル支店長

■ ウェブ会談「日米同盟：ジオポリティクスから草の根交流まで

A Conversation about the US-Japan Alliance: From Geopolitics to Grassroots」の開催

CIE-US 理事長であり、元米国海軍少将であるジェームズ・ケリー氏と日本研究を専門とする外交問題評議会上級研究員のシーラ・スミス博士による対談が行われた。安全保障における日米関係を、ケリー理事長自身の在日基地での日米親善の貢献や、シアトル大会でのホストファミリーとして、また兵庫・姫路大会への参加者としての体験を交えて、草の根交流から生まれる相互理解の重要性を、スミス博士とともに語り合った。

開催地：オンライン

開催日：2020年10月23日午前8時～

主催団体：CIE-US

主な参加者：アメリカ人過去大会参加者、全米日米協会およびUS-Japan  
カウンシル会員、他

■ ウェブセミナー「ローゼンバック博物館特別展：万次郎 漂流 1841-2020」の開催

フィラデルフィアのローゼンバック博物館で開催中の「万次郎」特別展のライブウェビナーを開催。ローゼンバック博物館学芸員ジュディ・ガストン氏と財団評議員平田潔氏が登壇し、日本人にも内容がわかりやすいように日本語字幕対応を試み、博物館所蔵の万次郎らの漂流記録「漂異紀略」と万次郎自身の魅力について触れた。

開催地：オンライン

開催日：2020年10月24日午前9時～

主催団体：CIE、フィラデルフィア日米協会、ローゼンバック博物館

主な参加者：過去サミット大会参加者（日米）、万次郎関係団体会員、  
日米協会会員、他

■ ウェブセミナー「家族の絆：日米友好と中濱家、ホイットフィールド家の貢献」の開催

日米友好交流の原点と言われる万次郎とホイットフィールド家の交流

の歴史を改めて学ぶため、ホイットフィールド家およびペリー家の子孫、そして万次郎研究者たちと、CIE-US 理事デイビッド・ジェーンズの進行によりウェビナーが開催された。ウェビナー開催に際し、河野雅治 CIE 理事長からビデオレターが寄せられた。

ホイットフィールド船長子孫のボブ氏 (5 代目)、スコット氏 (6 代目)、モーガン氏 (7 代目)、ペリー提督 5 代目子孫のマシュー・ペリー氏、そして、万次郎研究者として、財団評議員平田潔氏、ローゼンバック博物館学芸員ジュディ・ガストン氏が登壇し、万次郎とホイットフィールド船長の出会い、万次郎のペリー提督日本遠征での役割から、現代の 3 家族の関係、そして、長年にわたる両家の友好交流、日米草の根交流が果たす友好交流の架け橋の役割について語られた。

開催地：オンライン

開催日：2020 年 11 月 6 日午前 9 時～

主催団体：CIE、CIE-US

主な参加者：過去サミット大会参加者（日米）、万次郎関係団体会員、日米協会会員、米国アジア研究機関会員、他

#### 4. 2021 年日米草の根交流準備

2021 年内のコロナ禍の影響を想定しつつ、将来の日米交流の成果を見据えた「ビヨンド・コロナ」対策としての以下の 3 つの交流イベントの準備を進めた。

- オンライン交流：Pre 和歌山大会（6 月下旬予定）
- 日米草の根「絆」交流 みやぎ大会～サンフランシスコ大会：  
みやぎ大会（2009 年）とサンフランシスコ大会（2010 年）から始まった参加者同士の交流により、2011 年の東日本大震災で被災した宮城県石巻市の小中高校へ、サンフランシスコ市内の高校が学用品の物資支援を行った。その高校の出身者がフェンシングのアメリカ代表選手として東京オリンピックに出場するが決まっており、コロナ禍によりアメリカからの応援訪問が縮小されることも想定されるため、みやぎ大会・サンフランシスコ大会の参加者を中心に「恩返し応援」交流を行う。新たな交流と共に 10 年に渡る草の根交流の軌跡を振り返る。
- 第 1 回日米草の根交流ユースサミット：  
コロナ禍による若者世代の日米交流の断絶を避けるべく、コロナの影響の収束が見込まれる 2021 年後期に、日米両国の学生同士の交流をオンライン及び米国内で行う。

## 5. 2023年以降日米草の根交流サミット大会開催準備

新型コロナウイルスの感染拡大は直近2回のサミット大会開催に影響を及ぼし、2023年の開催地は未定のまま、2024年(予定)にはオハイオ州での開催が決定している状態となった。従来の日本・アメリカ開催の順序が逆転する状況を鑑みながら、2023年および2025年以降の日米草の根交流サミット大会の開催候補地をCIE-USと模索したが、決定までに至っていない。

## 6. 情報の発信

- 1) ニュースレター「草の根通信」を年度内に4回制作。  
ホームページに掲載するとともに、必要部数を印刷して配付した。
  - 草の根通信 102号(3月)
  - 草の根通信 103号(6月)
  - 草の根通信 104号(9月)
  - 草の根通信 105号(12月)
- 2) 活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)の発行、準備
  - ・ 2020年版発行
- 3) ホームページ、Facebookを通じた発信  
大会告知、ニュースレター、ウェブイベントの告知、活動情報等を掲載した。

以上

# 令和2年(2020年)度事業報告書 附属明細書

令和2年1月1日～令和2年12月31日

特になし。

- 参考資料として以下を配付
- ー 2020年版活動報告書(アニュアル・アクティビティ・レポート)